

石巻南浜津波復興祈念公園 概要

【平成29年度 第4回 東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討にかかる有識者会議 資料】

平成30年 1月11日
東北国営公園事務所

1. 公園の基本理念と基本方針(H25基本構想にて設定)

基本理念

東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼と鎮魂の思いとともに、

- まちと震災の記憶をつたえ
- 生命(いのち)のいとなみの杜をつくり
- 人の絆(きずな)をつむぐ

基本方針

・犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する

宮城県や被災地全体の追悼と鎮魂の中核的な場所として、祈りの空間を整備する。

・被災の実情と教訓を後世に伝承する

この地のこれまでの歴史と震災後の環境変化、被害を実感し、教訓を伝承する場を整備する。

・復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する

美しい杜への再生により、震災からよみがえる被災地の姿と重ねあわせた復興の象徴空間を整備する。

・多様な主体の参画・協働の場を構築する

人と人とのつながりの再生が、真の復興につながるため、多様な主体が参画・協働できる場を構築する。

・来訪者の安全を確保する

適切な避難が円滑にできるよう、避難場所となる丘や周辺の高台への避難経路などを整備する。

2. 公園の基本デザインコンセプト(H26基本計画にて設定・H27基本設計で具体化)

基本デザインコンセプト

～浜・街・追悼と伝承の場所性を重ねる～

- かつての環境と現状を踏まえ、土地本来の自然を育む
- 暮らしの記憶を街路網に刻み、これを感じる
- 追悼と鎮魂の思いとともに、まちと震災の記憶をつたえ、生命(いのち)のいとなみの杜をつくり、人の絆(きずな)をつむぐ

土地の履歴

- ・かつての湿地と松原であった場所。
- ・津波で街が消失、本来の自然に回歸しつつある。

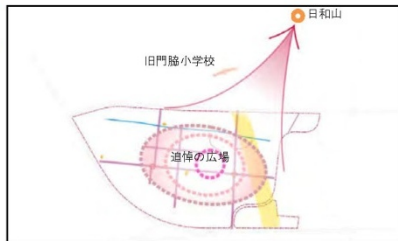
街の記憶

- ・市街地が大津波で消失したが、暮らしの記憶を再生する手がかりが残っている。
- ・人々の心に暮らしの記憶がある。

追悼と伝承

- ・自然への畏敬の念と暮らしの記憶を持ち、追悼と教訓の伝承とともに、復興への意思を伝え続ける。
- ・命の尊さを実感する公園づくりを通じてこの土地に係わり続けていく。

追悼と伝承



追悼と伝承（東日本大震災後）

犠牲者への追悼と鎮魂の想い
地震と津波、その後の火災で甚大な被害を受けた記憶
日和山に避難した記憶
災害への備えと教訓の伝承の想い

東日本大震災の発生

街の記憶



街（昭和 30 年代～東日本大震災まで）

- ・利便性が高く、閑静な住宅街
- ・南浜町二丁目、三丁目からの宅地化の進展
- ・震災前の街の記憶
- ・元住民の暮らしの記憶

市街化の進展

土地の履歴



浜（昭和 20 年代まで）

- ・善海田と呼ばれた水田と湿地
- ・浜堤地形と松原
- ・聖人堀
- ・集落の形成された微高地
- ・水や海の安全を祈願した史跡

祈念公園

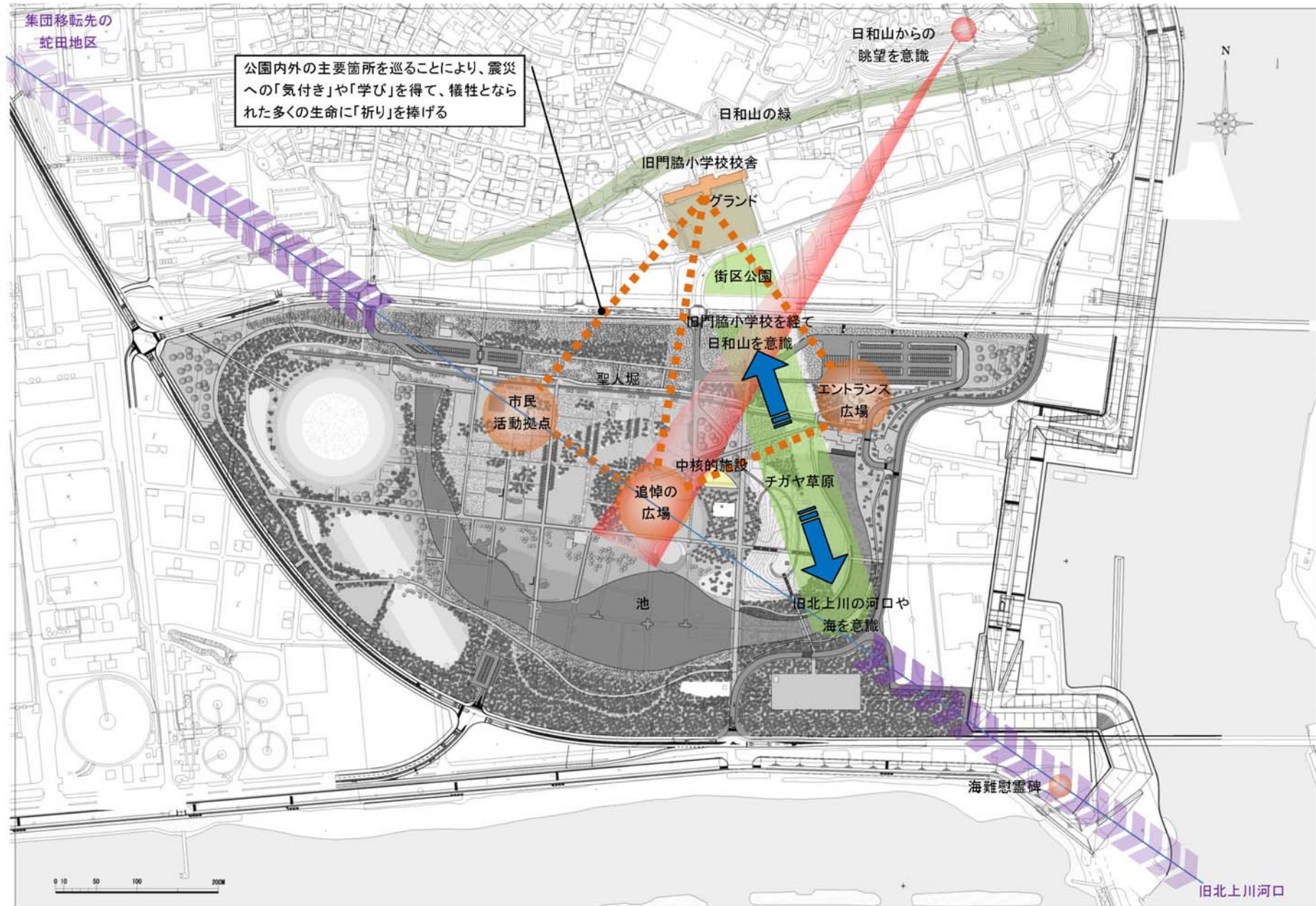
南浜地区の土地の履歴を示すかつての「浜」、市街化後の南浜地区への想いや記憶が残る「街」を土地利用の前提とし、東日本大震災による犠牲者を追悼し、被災の教訓を次世代へと伝承していくことを祈念する

- 公園全体が「犠牲者の追悼ができる」空間
- かつて街と暮らしがあったことを実感できる空間
- 式典や伝承が可能な中核的空間
- 雨水調整と自然の育みを併せ持つ湿地・池沼
- 美しい杜づくりと多様な主体の参画・協働

- 街の遺構（街路、聖人堀、史跡、建物基礎）
- 本来の自然に回歸した湿地環境
- 浜堤地形と松原

- 市民のこの地への係わり方を組み立て、プロジェクトとしてつくり続ける

3. 旧門脇小学校や日和山との関係性(H28実施設計にて整理)



4. H29建築計画を反映した計画平面図



※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

5. 中核的施設の平面計画(H29建築基本設計)

○建築意匠の考え方

1 「全方位性」を高める「円形平面」

日和山、「祈りの場」、善海田稲荷、北向き地蔵、旧門脇小学校、市民活動拠点、地域の歴史や震災遺構など、全方位に向けた「対面性」を重視した平面形状。

2 屋内の「祈りの場」の設定

高齢者や身障者のアクセスのしやすさ、荒天時（雨・雪・暴風など）の安全性を考慮して、「屋内での祈りの場」を設ける。

3 「街の記憶」を取り込む

公園全体計画の考え方を尊重し、計画地にのこる街路跡を平面計画に取り込む。

4 光と影で「震災発生時刻」を表現

室内に設置を提案する献花台の位置や床面に落ちる光と影で、震災発生時刻をあらわし、記憶の伝承を目指す。

5 深い軒下の「円環テラス」

建築周囲の深い軒下に、幅の広い縁側「円環テラス」を設け、半屋外空間としての利活用を提案。例えば、軒下の休憩スペース、雨天時におけるボランティアの説明スペースなどに活用。

○間取りの考え方

A 機能別ゾーニング

事務室や会議室など、室の利用方法が将来にわたって変化しにくい部分と、多目的スペースなど利用方法の変化に柔軟に対応すべき部分とを明確に区分。

B 多目的スペース

「屋内の祈りの場」であるとともに、集会・展示・ライブラリー・休憩・喫茶など、さまざまな利用に応じた柔軟な対応。

C 事務室への動線配慮

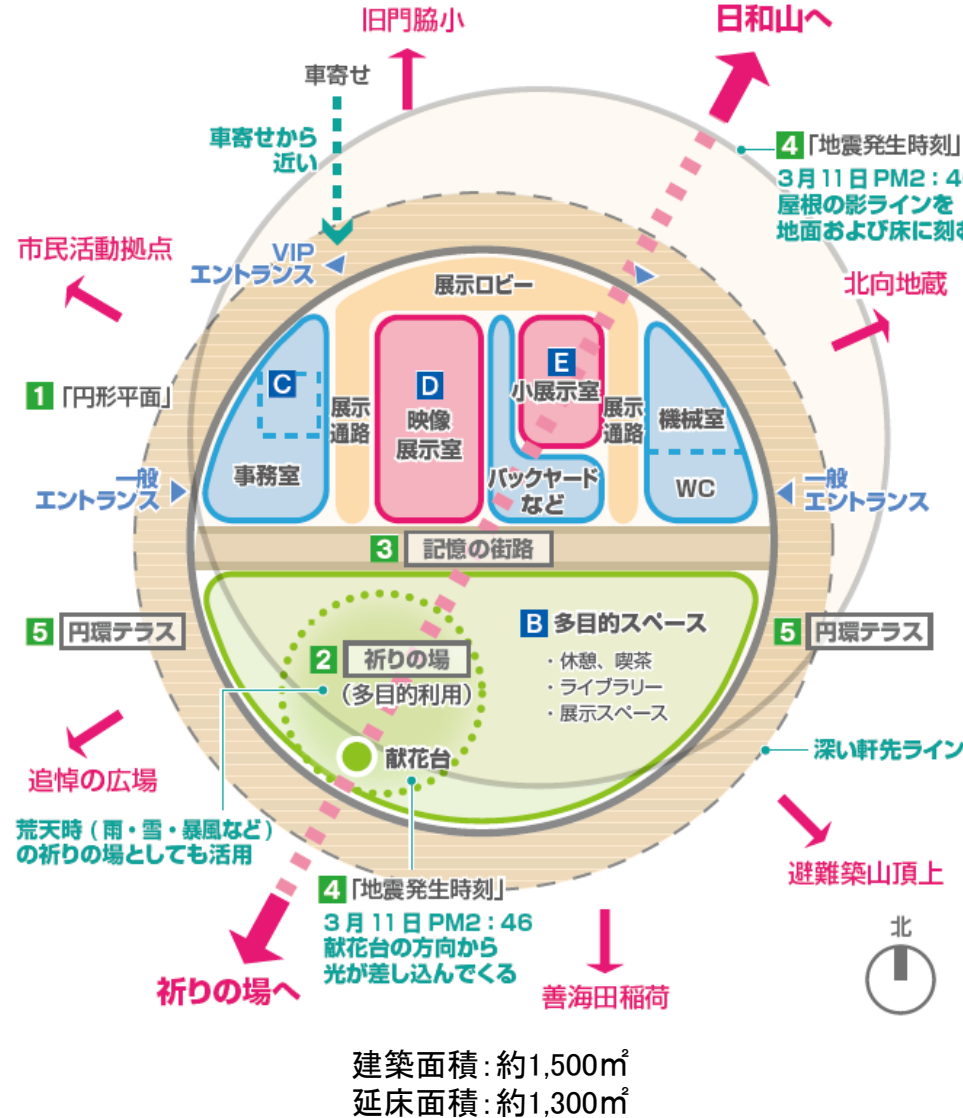
機能動線、車寄せとの近接配置。

D 映像展示室

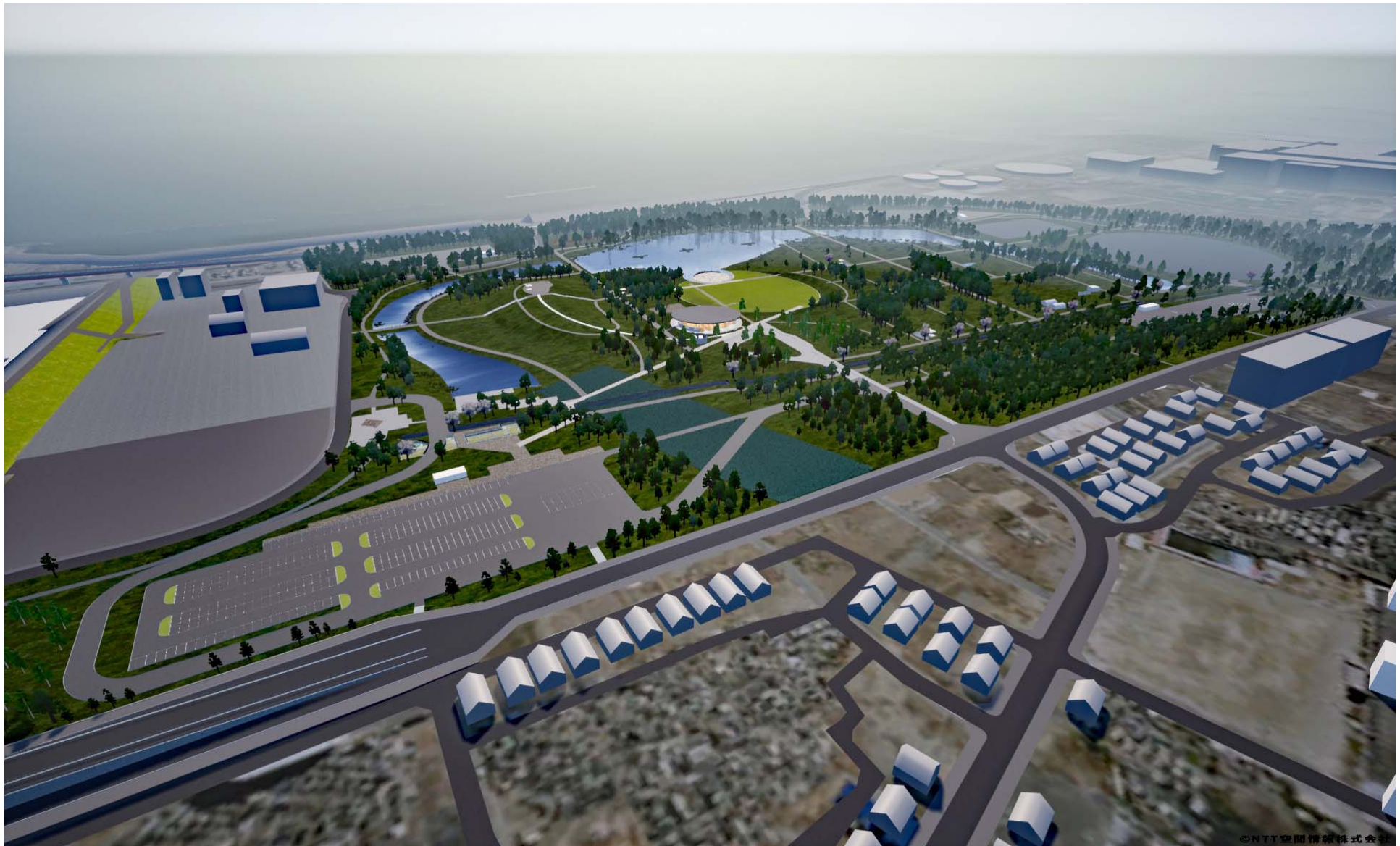
約100人収容可能。会議や講演などの利用にも対応。

E 小展示室

2室一体利用や、可動間仕切りにより小グループでの利用など、様々なシーンに対応。



6. 日和山方向から見た祈念公園の鳥瞰イメージ



7. 中核的施設の計画イメージ(H29建築基本設計)



©NTT空間情報株式会社

8. 「参加型維持管理運営」検討協議会の組織体制

石巻南浜津波復興祈念公園「参加型維持管理運営」検討協議会

目的：石巻南浜津波復興祈念公園基本計画に基づく活動の実践、新たな維持管理運営手法の検討を行うことを目的とする。

検討協議会全体会議

運営方針：協議会の設置目的を達成するため、復興祈念公園の基本理念及び基本方針を踏まえて、次のことを行う。

1. 震災の記憶と教訓を後世に伝承する活動に関すること。
2. 防災学習活動に関すること。
3. 植樹活動に関すること。
4. 施設維持管理活動に関すること。
5. 行事等の活動に関すること。
6. 市民活動拠点活動の調整に関すること。
7. その他課題の対応に関すること。

会長
副会長

杜づくり部会

部会長
副部会長

郷土種の種子採取、育苗、植樹、植栽地の除草、間伐、枝打ち、古損木の植替え等の検討

伝承部会

部会長
副部会長

東日本大震災の被災の実情と後世への記憶の伝承を目的とした語り部、震災学習ガイド、県内他地域との連携等の検討

市民利用部会

部会長
副部会長

公園整備の状況を踏まえながら、市民や県民等の多様な行事ニーズを考慮し、今後の企画や催事のあり方について検討

- 年間活動計画書の策定（具体的な活動内容、活動場所、スケジュール、活動体制等）
- 活動の実践
- 活動団体間の連携、調整
- 公園設計、工事との調整等
- 各部会協議会

9. 協議会構成団体

石巻南浜津波復興祈念公園「参加型維持管理運営」検討協議会名簿

番号	団体名	登録者名
1	アイリンブループロジェクト実行委員会	菅原 淳一
2	石巻管内特別支援学級後援団体青い鳥の会	門脇 利勝
3	NPO法人 こころの森	古藤野 靖(会長)
4	かどのわき町内会	本間 英一
5	蓮の会	樋口 伸生(副会長)
6	一般社団法人森の防潮堤協会	日置 道隆
7	(一社)石巻青年会議所	宇都宮 光博
8	特定非営利活動法人いしのまき環境ネット	齋藤 義樹
9	公益財団法人鎮守の森プロジェクト	川床 静夫
10	がんばろう！石巻の会	黒澤 健一(副会長)
11	石巻観光ボランティア協会	齋藤 敏子
12	一般社団法人ISHINOMAKI2.0	松村 豪太(副会長)
13	一般社団法人日本植木協会東北ブロック会	菅原 豊
14	公益社団法人みらいサポート石巻	中川 政治(副会長)
15	(一社)日本造園建設業協会宮城県支部	古積 昇
16	東北ジャム実行委員会	岡 泰史
17	NPO法人MAKETHEHEAVEN	谷口 保
18	石巻商工会議所青年部	武山 雄樹
19	一般財団法人公園財団	蓑茂 壽太郎
20	石巻市環境保全リーダーの会	岩淵 興一

10. 市民活動拠点で活動する団体

■ 市民活動拠点登録団体一覧 (H29.12.15現在)

No	団体名称	活動内容
1	NPO法人こころの森	公園に植栽する育苗用ビニールハウス2棟の設置・管理
2	公益社団法人みらいサポート石巻	南浜つなぐ館の設置・運営
3	がんばろう！石巻の会	がんばろう！石巻看板(付帯施設含む)の設置・管理
4	アイリンブループロジェクト実行委員会	奇跡の花「あいりちゃん(フランスギク)」の植栽・管理
5	石巻商工会議所青年部	石巻にふれる学びのツアーの企画・運営
6	青い鳥の会	宿根草(ルリギク・アスター等)の植栽・管理
7	一般財団法人 公園財団	花譜Projectの運営・管理

■ 造成中の市民活動拠点 (H29.9.11撮影)

